

# 施策評価シート （評価対象年度：平成30年度）

## 1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2 里地里山の保全	② 施策番号	3437
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	1 豊かな自然環境を維持・向上し、うるおいあふれるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 森林の保全と活用		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
市民生活環境部	産業観光課		

## 2. 施策の現状把握

### [1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	里地里山(さとちさとやま)
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	本市の山間部には、集落とそれを取り巻く森林、農地、ため池があり、また森林空間を活用したダムやわいわい村等の資源があり、自然資源の良好な景観などレクリエーションの場として楽しめるよう里地里山を保全・活用する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	国においては、伝統的な里地里山の利用・管理手法の再評価、保全活用につながる新たな利活用手法の導入、都市住民や企業など多様な主体の参加促進方策などの視点について検討を行い、地域の活動にとって必要な助言や技術的なノウハウの提供を行うことにより、全国的な里地里山の保全活用を促進している。

### [2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 林業振興 修繕件数 計算式:	件	山林・林道等の安全対策管理などと自然資源の良好な空間を守っている状況が読み取れるため。
② 計算式:		
③ 計算式:		

指標名	単位	実績					目標		備考
		H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標			
① 林業振興 修繕件数	件	目標値				5	5		
		実績値	5	5	5	—	—		
		達成率							
②		目標値							
		実績値							
		達成率							
③		目標値							
		実績値							
		達成率							

### [3] 施策を構成する事務事業

事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価	今後の方針	
1 林業振興事業	修繕件数	件	5	5	5	1,485	2,477	2,345	A	ア	○
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
計	1					1,485	2,477	2,345			

### 3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	自然資源の良好な景観などレクリエーションの場として楽しめるよう里地里山を保全・活用していくことは、集落に近い森林も保全・活用していくことも含まれており、上位施策である森林の保全と活用に貢献する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	迅速に機能回復、改善改修を行っており、地域住民や来訪者が日常安全に通行でき、良好な景観などのレクリエーションの場として活用できる状況となっていることが読み取れる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	地元、関係団体と連携しながら、役割分担を行い施策を進めているが、今後はNPO等の市民団体の協力も得ながら進める必要がある。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	事務事業の内容から、適正に構成されている。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	本施策を進めていくためには、里山や林道の除草、修繕は必要不可欠であり、重点化すべきと考える。

### 4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	C	本市の山間部では、人口の減少や高齢化の進行、里山林などの利用を通じた自然資源の循環が少なくなることで、環境変化を受け、自然資源の荒廃、里地里山における生物多様性の質と量の両面から劣化が懸念される。	

### 5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	地域住民、関係団体、NPO等の市民団体などと協働しながら、里地里山の保全・活用していく事業の検討。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	森林環境譲与税による山間部の森林の間伐が行えるよう、整備計画を策定する。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	整備計画に乗っ取って順次間伐を行い、森林保全を行っていく。

### 6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	C	森林を保全することにより、地球温暖化防止の効果、土砂災害を防止する機能の確保が図られる等様々な効果が見込まれる。 この自然環境を守るべく有効な保全と活用に向けた各種団体との連携や計画的事業展開の検討を進められたい。	